

# 水害対応タイムライン

令和4年6月6日  
福井河川国道事務所

「タイムライン防災」とは、大規模な災害はいずれ発生することを前提に、福井県民の命を守り、被害を最小化することを目的として、防災関係機関が連携して、災害時に発生する状況をあらかじめ想定し、共有した上で、「いつ」、「誰が」、「何をするか」に着目して、防災行動とその実施主体を時系列に整理した計画です。  
水害対応タイムラインは以下の階層となります。

- ◆ 流域タイムライン（他機関連携型タイムライン）  
比較的大きな流域を対象とし、福井県や各市町、国に加え、報道機関、ライフライン事業者、鉄道事業者など多くの防災関係機関の防災行動を記載し、国や福井県が事務局となり、減災協議会と防災関係機関で作成するタイムライン
- ◆ 市区町村タイムライン  
一つの市町の区域を対象とし、市町で作成するタイムライン
- ◆ 地区（コミュニティ）タイムライン  
自治会や小学校区など小さな区域を対象とし、住民や自主防災組織などの防災行動を記載し、市町と地域や住民と一緒に作成するタイムライン
- ◆ マイ・タイムライン  
施設毎や個人（家庭）が自らの行動を明らかにするタイムライン

○タイムラインとは、災害が発生することを前提として、関係者が事前にとるべき行動を「いつ」「誰が」「何をするか」に着目して時系列で整理したもの。



多機関連携型広域タイムライン策定のための手引き(大阪府作成)

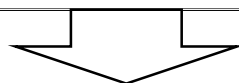
(事例:寝屋川流域大規模水害タイムライン)

<https://www.pref.osaka.lg.jp/attach/34256/00000000/kouzuitimelinetebiki.pdf>

災害時に迅速な連携が必要となる国や福井県、沿川自治体、インフラ事業者等の重要な関係団体と、風水害の発生前に各関係団体が取べき防災行動を時系列で、あらかじめ共有しておくことで、これまで以上の連携強化を図り、災害対応能力の向上を図ることを目的に九頭竜川・北川大規模減災協議会、嶺北ブロック減災対策協議会、嶺南ブロック減災対策協議会メンバー及び自衛隊、警察、報道機関、ライフライン事業者等防災関係機関により流域タイムライン検討会を構成し、令和5年度タイムライン作成を目標に検討を進める。

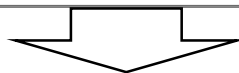
## 令和4年度

- ・関係機関の調整(減災協議会メンバー及び防災関係機関との調整)【国・福井県】
- ・タイムライン防災に関する会議【減災協議会】
- ・検討会発足会【減災協議会・防災関係機関】
- ・意思決定ワーキング(対象災害のリスク共有、被災シナリオ(気象、被災)設定等)



## 令和5年度【減災協議会・防災関係機関】

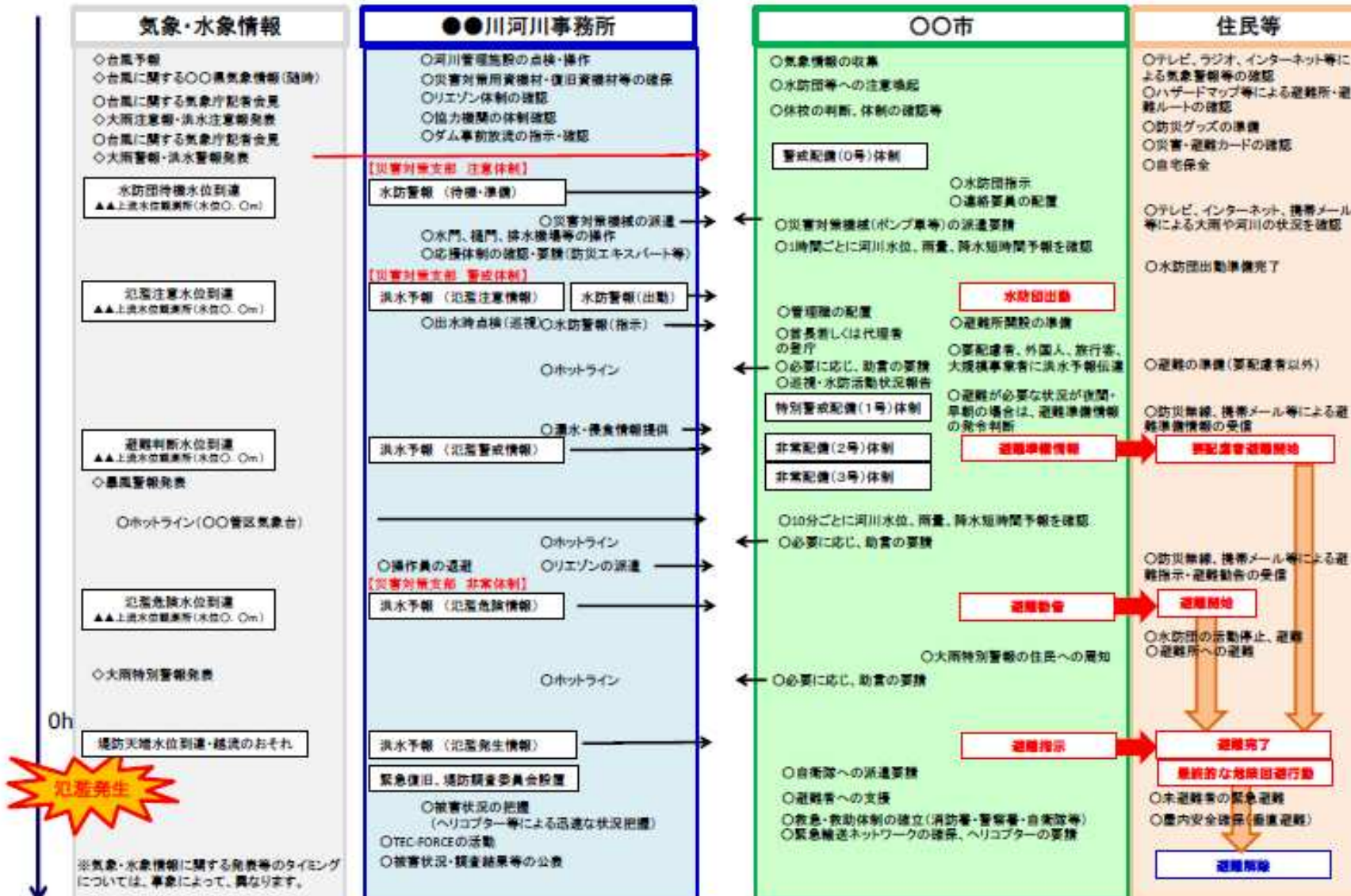
- ・意思決定ワーキング(流域タイムライン骨子作成(総括表、詳細表、総括図の作成))
- ・ブロックワーキング(モデルブロック選定、各市町部局の防災行動時系列化、役割分担確認、タイムライン骨子の整理)
- ・図上訓練によるタイムライン最終チェック(行動項目、実施タイミング、タイムライン運用確認、各市町・関係機関の対応状況の共有)



令和6年度以降、実災害での活用と事後検証によるタイムラインのブラッシュアップ

河川名：●●川  
観測所名：▲▲上流

台風の接近・上陸に伴う洪水を対象とした、直轄河川管理区間沿川の市町村の避難勧告等の発令に着目した**タイムライン**(防災行動計画) (案)



台風の影響による大雨によって引き起こされる「洪水」や「土砂災害」の場合、気象情報からあらかじめ台風最接近(雨が強く降るとき)の時間を予測することができます。

一番危険な時間帯を予測できれば、災害が発生する前に事前に備えをして避難することにより身の安全を確保することが可能です。しかし、いざというときに、いつ、誰が、何をするのかを分かっていなければ、全く意味がありません。

そこで、災害発生に備えて、「個人」と「コミュニティ(自治会など)」が事前にとるべき防災行動について、「いつ」「誰が」「何をするか」を時系列に整理したものが「コミュニティ(地域の)タイムライン」です。

どの道順で避難するのが正解？



事前に何をしておけば



近所の要支援者に声をかけるのはいつごろ？



どんな情報が大事なの？



## ■ 参考(コミュニティタイムラインの例)

和泉市域での取組事例

<https://www.pref.osaka.lg.jp/attach/34256/00000000/R3izumishijirei01.pdf>

# コミュニティタイムライン

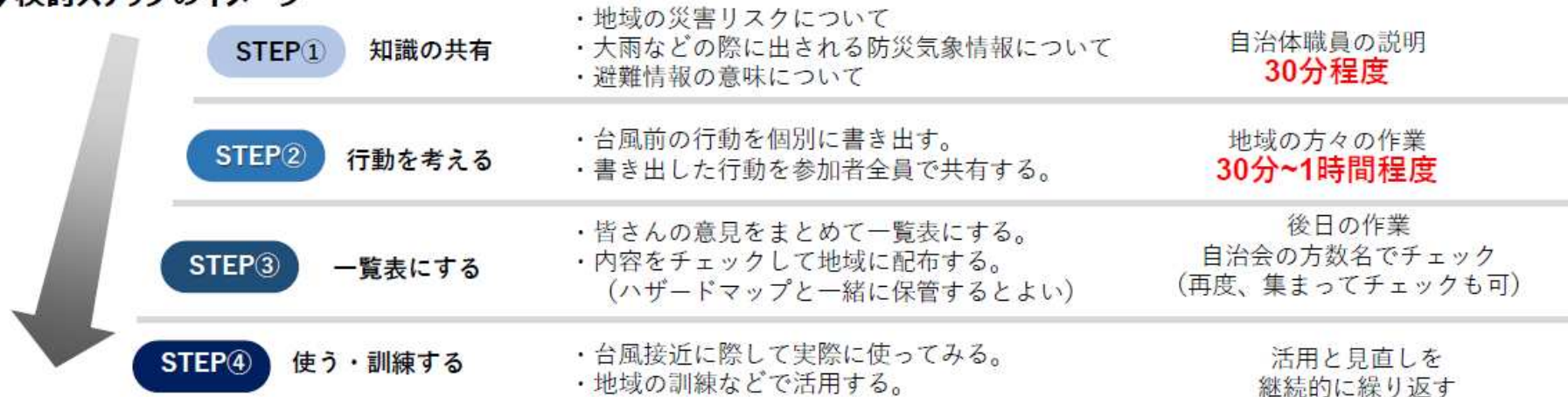
## ◆ コミュニティ（地域の）タイムライン導入による効果

1. あらかじめ、災害時の行動を決めて整理しておくことで、いざというとき、落ち着いて適切に行動することができます。
2. 地域の皆さんが顔を合わせて地域のルールを自ら決めて共有するとともに、実践的な訓練等を実施することで、自助・共助の意識が高まります。
3. 住民参加型の取り組みプロセスを通じて、地域の良好な関係づくり、地区の実情に応じたきめ細かい街づくりに寄与します。

## コミュニティ（地域の）タイムラインをどうやって作ればいいのか？

コミュニティタイムラインを作るために、いちから地域の人たちを集めるのは難しいかもしれません。そこで、もともとある自治会や地域の集まり、自治体（市町村など）との会議などを活用してつくるのが最も効果的であると考えます。

### ◆ 検討ステップのイメージ



# マイ・タイムラインとは

- マイ・タイムラインとは住民一人ひとりのタイムライン(防災行動計画)であり、台風等の接近による大雨によって河川の水位が上昇する時に、自分自身がとる標準的な防災行動を時系列的に整理し、自ら考え命を守る避難行動のための一助とするものです。  
その検討過程では、市区町村が作成・公表した洪水ハザードマップを用いて、自らの様々な洪水リスクを知り、どの様な避難行動が必要か、また、どういうタイミングで避難することが良いのかを自ら考え、さらには、家族と一緒に日常的に考えるものです。
- マイ・タイムラインの検討については、洪水ハザードマップ等を用いて居住地などの自ら関係する水害リスクや入手する防災情報を「知る」ことから始まり、避難行動に向けた課題に「気づく」ことを促し、どのように行動するかを「考える」場面を創出することが重要です。また、他者の意見等を参考に自分自身に置き換えて「気づく」こともあるため、ワークショップ形式で検討を進め、行政も防災士会などと連携してそれら検討の支援を行っています。
- マイ・タイムラインは、住民一人ひとりの単位で、水防災に関する知識と心構えを共有し、事前の計画等の充実を促すためのツールです。

## 参考

- ・マイ・タイムラインかんたん検討ガイド  
<https://www.mlit.go.jp/river/bousai/main/saigai/tisiki/syozaiti/mytimeline/pdf/kentouguide.pdf>
- ・マイ・タイムライン検討のためのワークショップの進め方  
<https://www.mlit.go.jp/river/bousai/main/saigai/tisiki/syozaiti/mytimeline/pdf/workshop.pdf>
- ・マイ・タイムラインガイド  
<https://www.mlit.go.jp/river/bousai/main/saigai/tisiki/syozaiti/mytimeline/pdf/guide.pdf>



### はじめに確認しましょう!

- ① マイ・タイムライン作成のためのチェックシート
- ② 「台風や前線が発生」してから「川の水が氾濫」するまでを知ろう!!(資料1)
- ③ 「台風や前線が発生」してから「川の水が氾濫」するまでの備えを考えよう!!(資料2)
- ④ きみだけの『マイ・タイムライン』をつくってみよう!!(シール付き)
- ⑤ みんなでつくろう!マイ・タイムライン  
～マイ・タイムラインをつくるためのヒント集～
- ⑥ ご自宅に戻ったらみなおしてみよう



## マイ防災マップ作成、まち歩き体験を組合わせた マイ・タイムライン作成講座（福井県福井市）

- 取組主体 : 福井市中藤島公民館
- 取組参加機関 : 福井河川国道事務所、福井市中藤島公民館、中藤島地区自主防災会、福井県防災士会、NPO法人ドラゴンリバー交流会
- 対象 : 福井県福井市中藤島地区
- 参加人数 : 延べ145名
- 取組概要 : マイ・タイムラインの作成を推進するため、マイ防災マップ作成から始め、①. 自分たちの住んでる地域の特性やまち歩きルートによる避難ルートや注意箇所の確認を行うための事前説明、②. マイ防災マップの作成手順、まち歩きによる避難ルートや注意箇所の確認の体験を実施、③. マイ防災マップ作成のワークショップまでを3回に分けて実施。次に、④. 逃げキッドを用いたワークショップ形式によるマイ・タイムラインの作成と作成後の発表・意見交換会、減災対策の取組紹介、避難に必要な情報の取得に関する説明を行った。
- 取組の様子 :



【基礎勉強会】



【まち歩き体験】



【マイ防災マップワークショップ】



【マイ・タイムラインワークショップ】

## 地域を巻き込んで、要配慮者が避難できる仕組みを 岡山県倉敷市）

- 組主体 : 高梁川・小田川緊急治水対策河川事務所（事務局）
- 組参加機関 : 真備地区関係機関・事業所等連絡会、真備高齢者支援センター（地域包括支援センター）、まちづくり推進連絡協議会、民生委員、社会福祉協議会、倉敷市 ほか
- 象 : 倉敷市
- 加入数 : 真備町の要配慮者を中心に取り組みを拡大
- 組概要 : 西日本豪雨で、倉敷市真備町は51名の方が亡くなられた（災害関連死除く）が、そのうち約8割が70歳以上の高齢者でした。そのため、洪水で死者を出さないためには、高齢者や障がい者など1人で自発的に避難することが難しい方々に避難してもらうことが重要です。倉敷市真備町地区では、要配慮者が、「いつ」「どこに」「誰と」「どうやって」避難するか、隣近所をはじめとした地域の方々や、福祉事業所職員等一緒に考える、「地域連携型」のマイ・タイムライン」の作成を進めています。さらには、蓄積されたノウハウを作成ヒント集としてまとめるとともに、劇団「老いと演劇 OiBokkeShi」（主演俳優は94歳）による作成支援動画を作成し、取り組みを加速化しています。

組の様子 :



要配慮者マイ・タイムライン  
作成中の様子



要配慮者マイ・タイムラインにもとづき  
避難訓練を実施



要配慮者マイ・タイムライン  
作成ヒント集



作成者の声



劇団OiBokkeShiによる  
要配慮者マイ・タイムライン作成動画

## ■ 地域におけるマイ・タイムライン事例集

<https://www.mlit.go.jp/river/bousai/main/saigai/tisiki/syozaiti/mytimeline/pdf/jirei.pdf>